

「全国に誇れる御成門中学校を創る」－世界に発信する－



# 御成門だより

令和2年1月8日 発行  
第 9 号  
発行責任者  
港区立御成門中学校  
校長 佐藤 太

教育目標 「豊かな心とたくましい体をもつ生徒」「自ら計画し進んで学習する生徒」「他人の立場を尊重し仲良く協力できる生徒」

〒105-0003 港区西新橋3-25-30 電話 03-3436-3551 FAX03-3436-3552 E-Mail onarimon-js@minato-tyky.ed.jp



## やった人だけが、できる人に成れる

校長 佐藤 太

新年あけまして、おめでとうございます。

2020年、令和2年の干支は子年（ねどし）。一番目の動物の鼠<sup>ねずみ</sup>です。中国伝来の十二支で「子」は繁る、栄える意味をもち、繁殖力の高い鼠が当てはめられたとされています。もともと十二支は、植物が循環する様子を表していて、「子」は、新しい生命がきざし始める状態を指しています。ですから十二支一番目の子年は、新たなことが芽吹き、繁栄の始まりとも言われます。皆さん自身が、今年の一年、目標や希望をもち、新たなことにチャレンジしたり、取り組む年にしてほしいと思っています。

さて、新年を迎え、皆さんは、“今年こそは、〇〇をやろう”と決意したことはありませんか。私には、〇〇をやりきれた年も三日坊主で終わってしまった年もありましたが、意を決して物事に取り組みだすときに、自分の心に言い聞かせる言葉があります。それは、

為せば成る 為さねば成らぬ 何事も 成らぬは人の 為さぬなりけり

という和歌です。この和歌は、江戸時代に借金16万両（約160億円）で財政破綻寸前だった米沢藩（現・山形県）の再建を果たした藩主・上杉鷹山（うえずぎようざん）が、自分の役目を終えた後、次の藩主に伝えた言葉です。この歌の初句「為せば成る」、つまり「やればできる」は、良く聞く言葉ですね。皆さん自身も「自分はやればできるから」と思ったり言ったりしたことはありませんか。勉強でも日々の課題でも、やればできるけど自分はやらないだけ。できなかつたのはやらなかつたからで、やりさえすれば自分できるはず…。学生時代に私も含めて、周りにはそのようことを言っている仲間が結構いましたが、大抵はいつまで経ってもやれていませんでした。その人達はおそらく本当に、やればできる人達だと思っています。でも大事なのは、実際にやるかどうかではないでしょうか。

なぜなら、この和歌の第二句にある「為さねばならぬ」のとおり、つまりは「やらねければできない」からです。そのうちやればできるは、確かにそういうこともあります。そのうち、いつかは、いつ来るのでしょうか。やる時期を逃してしまったり、やる気が出るのを待って期限が過ぎてしまうこともあります。永遠に来ないかもしれません。ですから、やるべき時に、やる気を出してしっかり取り組むことが大事などだと思います。やる気も実力のうちです。「やればできる」などと弁解などせず、まずはやってみましょう。あなたの周りで、あなたにはできていると見える人、できていると思う人は、何もしなくてもできているかのように思っているかもしれませんが、そんなことはありません。できている人は、あなたが思っている以上に、努力しているはずです。

やるか、やらないかは自分次第です。年の初めに当り、やろうと思うことは意を決して、実際にやってみましょう。やった人だけが、できる人になれるのだと思います。

いよいよ、3学期スタートです。風邪を引かないように、健康に注意して今年も元気に頑張りましょう。